

第1次総合計画では、計画や施策の達成状況等を示す指標の設定はありませんでしたが、第2次総合計画では、次の考え方から、施策等に対し、指標を設定し、進捗状況等を評価・管理する必要があります。

1 指標の設定等について

（1）計画や施策の進捗状況の評価・管理する

1950年代以降において、計画行政が主流となってきたことに伴い、当該計画に位置付けられた施策の目標や進捗状況、評価が求められるようになりました。現在では、「PLAN（計画）→DO（実行）→CHECK（評価）→ACT（改善）→PLAN（計画）」のPDCAサイクルにより、計画や施策のマネジメントが行われるようになり、市の分野別の行政計画においても、同様の手法により、施策の進捗状況の評価や管理が行われることが多くなっています。

（2）第2次総合計画は地方版総合戦略を包含する

国では、人口急減・超高齢化という国家的な課題に対し、まち・ひと・しごと創生法を制定し、閣議決定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」により、地方創生の取組を進めてきました。本市においても、平成28年度「あきる野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）を策定し、各種の施策を進めてきました。

国の「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き」から、総合戦略には、「数値目標・重要業績評価指標（KPI）」を設定することとされています。

第2次総合計画は、計画期間が終了する総合戦略を包含するものであるため、必然的に「数値目標・重要業績評価指標（KPI）」の設定が必要となります。

（3）目標や指標の設定に当たって

1で記したとおり、市の分野別の行政計画においても、進捗状況の評価や管理が行われており、それぞれの計画において、目標、指標等が設定されています。

また、2で記したとおり、第2次総合計画は、総合戦略を包含するものであるため、総合戦略のKPIを引き継ぎ、施策の進捗状況等の連続性を担保する必要があります。

計画や施策の進捗状況の評価・管理は、施策をマネジメントする上で、非常に重要ですが、効率的に行う必要があるため、既存の目標、指標等をできる限り活用することとします。



第2次総合計画・基本計画の施策が固まったところで、
各施策の所管部署と調整の上、「施策の柱」ごとを目安に、目標・指標を設定します

2 指標の例

第3章 市民生活・環境分野

第4節 水と緑に恵まれた生活環境づくりの推進

1 生物多様性の保全 ← 施策の柱

- ① 自然環境の保全
- ② 希少動植物保護の推進
- ③ 外来種対策の推進



指標名	基準値	目標値	出典
生物多様性という言葉の認知度（内容も分かる）	30.2% （平成26年度）	70.0% （令和7年度）	・ 第二次環境基本計画 ・ 総合戦略 ・ 生物多様性あきる野戦略

第4章 保健福祉分野

第2節 安心して子どもを産み育てられる環境の整備

1 子どもたちが健やかに育つ環境の整備 ← 施策の柱

- ① 幼児教育・保育の充実
- ② 成長段階に応じた健全育成
- ③ 特に支援を必要とする子どもへの支援の充実



指標名	基準値	目標値	出典
保育園の待機児童数	12人 （H27.4）	0人 （令和2年度）	・ 総合戦略
学童クラブ待機児童数	161人 （H30.4）	0人 （令和6年度）	・ 子ども・子育て支援総合計画